

# 1 学群・学類

## 1.1 第一学群

### 1 第一学群の活動

第一学群は、人文、社会、自然各学類の専門分野についての基礎的学力を身につけ、かつ高度な創造力を持った教養人を育成することを教育目標としており、この目標実現のために各学類はそれぞれ積極的に教育活動を展開してきた。学群運営は各学類の主体性・独自性を尊重する形で運営されているが、学類間の連絡・調整もうまく機能してきた。なお、平成15年度は平成14年度に引き続き、法人化後の学群教育とその支援体制のあり方について、月例で開催される学群長・学類長連絡会において様々な角度から意見交換を行ってきた。

学群としての活動は、概略、次の通りである。

- (1) 教員会議を2回、運営委員会を1回開催し、学群予算の編成と執行、学生問題等について審議した。入学及び卒業に関しては、入学者選考委員会を8回、卒業者判定特別委員会を3回開催した。また、学群長・学類長連絡会を月例的に開催し、学群としての方針の策定及び学類間の連絡・調整にあたった。
- (2) 施設や設備の老朽化が一段と進んでいるため、雨漏り箇所の修理、実験室の黒板とスクリーンの更新等を行うとともに、2階ベデストリアン上の自転車駐輪場の鉄柵の撤去等による駐輪場の整備を図り、自転車での走行及び歩行者の安全かつ円滑な通行を確保した。また、教育環境整備の一環として、E棟2階に身障者用トイレを、H棟2階に通常のトイレを設置した。
- (3) 学務関係では、平成14年度に導入された新学務システムが有効に活用できるよう環境整備に努めるとともに、学生の学習環境整備のため人文社会学習室を新たに設置した。また、計算機教育の環境整備のため計算機端末室の拡充・改修を計画し、現在実行段階に入っている。
- (4) 学生生活関係では、いずれも軽微ではあるが、2件の交通事故が発生し、その都度、当該学生に対して注意喚起を行った。また、大学紹介ビデオの改訂に向けて、第一学群関係の紹介ビデオ作成のための準備を行った。

### 2 教員の教育業績評価の状況

人文・社会・自然の3学類は扱う学問分野も教育目標も異なるので、全教員一律に教育業績評価を行うことは困難である。したがって、業績を高めるための方策や評価の基準・方法の設定については、基本的には各学類の判断に委ねざるをえない。自然学類では、学生による授業評価を精力的に行い、教員の授業改善に成果を上げている。個々の教員も、授業方法の改善やレベルアップに日常的に努めており、また、入試・カリキュラム編成・学生生活指導等の業務にも誠実かつ積極的に取り組んでいる。

### 3 自己評価と課題

「基礎学群」としての本学群の教育活動は順調に行われてきたといえる。しかし、法人化を平成16年度に控えて、平成14年度提出した本学群の中期目標・中期計画案をその後の情勢にあわせて一部修正した。また、教育評価の枠組みが全学的に設定される状況の中で、本学群の対応を具体的に決めていく必要がある。特に、大学院中心の大学の中で学群教育の質を維持し、さらに高めるための方策が求められている。基礎学群としてこの問題にどのように対処するか、学群教育の将来にとって重要な課題である。